平成２７年度第７回「知事と語ろう市町村ミーティング in ながい」

＜開催日時＞　平成２７年１２月１日（火）
＜開催場所＞　長井市ＴＡＳ（タス）ビル
＜参 加 者＞　約１５０名

【開催テーマ】あったかい山形で　しあわせに暮らせるまちを目指して

【質疑事項】
１　けん玉を使った地域づくりについて
２　若手民間事業者に対する支援について
３　新規就農者の支援について
４　県産品について
５　建設・建築業界の人材育成について
６　障がい者施設の運営費補助の充実について
７　フラワー長井線に対する一層の支援について
８　知事の今後の活躍に期待

【テーマに関する質疑】
１　けん玉を使った地域づくりについて
＜意見者＞
競技用けん玉生産日本一を誇る長井市のけん玉を使った地域づくりという点から質問させていただきます。まず始めに、知事がけん玉を使って長井を PR していただいていることに深く感謝申し上げます。また、知事のけん玉６級の認定取得についても大変うれしく思います。
私を始め、グループに所属しているメンバーは、平成４年のべにばな国体の開会式でけん玉の集団演技を披露した当時小学６年生の同級生がほとんどです。今では 30 代となり、長井のまちをもっと元気にしたいという思いから「べにばなレジェンド」というグループを結成しました。長井や山形県を盛り上げるため、イベント参加やギネス挑戦などを行っています。また県主催の事業「木のある暮らしフェスティバル」には、昨年と今年、2 年続けて参加させてもらっています。今後も長井のけん玉を使って地域が元気になり、いろんな人が訪れるイベント、大会などを行いたいと考えています。運営時の補助など事業への後援や共催など県にも御支援いただければありがたいと思います。もし、イベント運営等に関する県の支援策があれば、御教示いただきたいと思います。また、イベントや大会の際、是非知事にもお越しいただき盛り上げていただきたいと考えていますのでよろしくお願いします。
次に、けん玉は子どものアウトメディア教育や、高齢者の介護予防、脳の活性化などにも効果があると言われています。県主催の教育や福祉の中でも積極的にけん玉を活用してもらいたいと思います。

＜知事＞

県の補助支援ということでいただきました。ギネスへの挑戦ということもやっておられますけれども、これは長井だけじゃなくて、たくさんの若者に対してすごく注目されていることでございますので、これからもしっかり取り組んでいただければと思います。ただ、途中でちょっと失敗するわけですけど、その方が可哀想だなと。それでいじめられないようにと言いますかね、その人がずっと「ごめんなさい、ごめんなさい」となっちゃうところがちょっと気の毒だなと思いますので、そういったところが気楽になればいいかなと。私も怖くて参加できないんですよ。「私のところで止まったらどうすっべー」って思うものですからね。でも本当は楽しいものですからね。楽しむということが第一番かなと思います。

県では平成 25 年度に「やまがた若者チャレンジ応援事業」というものを創設いたしました。地域を元気にするアイデアや、地域の魅力発信など若者が自ら企画して実行する取組みに対して助成を行っております。今年度までに 37 件に補助金を交付しております。これまで置賜地域からは 9 件が採択されておりますが、残念ながら長井市からはまだ採択実績がございません。採択されるためには、公開審査というものを通らなければなりませんが、是非挑戦してみてはいかがかなと思います。補助の上限 100 万円だったと思うんですけれども、置賜総合支庁に御相談いただき、是非挑戦してもらえたらと思います。

また、若者グループが繋がる機会を拡大してネットワーク化を推進するために「やまがたおこしあいネット」というものを運用しております。現在県内では 250、長井市では 17 の若者グループが登録して、交流サイト上での情報発信、相互交流が行われております。こちらも是非登録して御活用いただき、活動を広めていっていただきたいと思います。

それから PR でありますけれども、けん玉は今、世界中で人気があります。本当に驚きの人気スポーツでございます。国籍年齢を問わずに楽しめるアイテムで世界的にブームになっています。10 月にイタリアでミラノ万博があって、地元の山形工房さんから御協力をいただいて、山形県の特産品としてけん玉のパフォーマンス体験ということをやったんですけど、大変好評でございました。この場をお借りして御礼申し上げたいと思います。

最近、テレビでアメリカのけん玉パフォーマンスを見ましたけどすごいですよね。それから、台湾とシンガポールに行って山形の発信をしてきましたが、台湾でもけん玉が大変注目、シンガポールでも注目されております。例えば、シンガポールですけれども、JCC「ジャパンクリエイティブセンター」というのがあるんです。政府の日本文化を発信する拠点なんですけれども、そこの所長さんが長井のけん玉を紹介したところ、普段アクセスは 1 万件くらいですが、けん玉を載せたら 5 万 6 千件を超えたと言っておりました。シンガポールでもものすごく注目されております。台湾、シンガポールでもけん玉をしっかり販売したらいいと思いますので、そのお手伝いをできたらいいなと思っているところです。

けん玉の話をすると私は長くなっちゃうので、ちょっと申し訳ないんですけどもね。でもこれは伝承遊びでありますから、世界中に流行するのを大いに活用して、観光にも私は展開していければと思うんですね。長井市さんと一緒になって、けん玉のふるさと長井市に行ってみようとか、例えばフラワー長井線に乗ってけん玉道場へ行ってみようとか、い

ろんなことができるのかなと。「けん玉のメッカ長井」とかいろんなことができるだろうなと。長井市はいろんな素晴らしい財産があるんですけど、尖ったものが欲しいなと思うときに、今の時代だとけん玉ではないかなと思うんですね。日本一ということは世界一ですので、ものすごいことなんです。けん玉でまちおこし、これはとても有効なことになるんじゃないかと。特に若い人から支持されるものが将来に繋がっていくと思います。

それから、高齢者の介護予防にも有意義であるということでありますし、それは身体機能の維持向上だけじゃなくて、社会参加とか多くの人との交流とかということもありますので、まさに、介護予防にも繋がるということでありますので、色々有意義なけん玉なんだなとしみじみ思います。市長さん、けん玉でもっとね、なんか思い切って何かできないものかと私なんかは思ったりするんですけども。

＜市長＞

知事のほうから詳しく、とにかく私たちが知らないところで国内はもとより世界にPRしていただいているということで感謝申し上げたいと思います。今年すごくブレイクしたのですが、実は、去年大ブレイクする間際のあたりから知事からは「けん玉頑張れ」と言われていたんですね。なかなかそこまで、我々は段取りできなかったんですけども。ただ昨日、YTSの「山形CM大賞」って御覧になった方いらっしゃいますか？今年CM大賞、残念ながら大賞は取れなかったのですが、審査員特別賞をいただきました。今回は、けん玉です。けん玉をストーリー化するのはなかなか難しくて、今まで、職員のチーム、３つのチームでそれぞれ競い合わせてやっていたんですが、なかなか「これは無理だな」と思ってあきらめていたんですが、今回頑張って作ってもらって。これはほんの序の口ですけども、知事からこれだけで頑張っていただいているので、長井の我々、私を始め市民みんなが頑張らないわけにはいかないですよね。是非頑張りたいと思いますので、よろしくお力添えお願いしたいと思います。

２　若手民間事業者に対する支援について

＜意見者＞

私は「俺たちの株式会社楽街」ということで本町と栄町、高野町の若手４人で出資して会社を作っています。今、長井市が「中心市街地活性化基本計画」ということで策定していまして、県のほうからも本町の「桐町成田線」の再開発事業整備を進めていただきまして、住民ともども商店街みな大変喜んでいるところです。ただ、工期が若干遅れているんですけども、なんとかこれから、私たちも頑張っていかなければならないと思っているところです。

私たちは株式会社を立ち上げて「何かをしたい」という思いで今動いているところです。そして、空き店舗をなんとか埋めたいと。若手の企業家たちが伸び伸びと自分たちの発想でどんどん動いていけるようなことを何とかしていきたいなと考えているところです。また、若手の女性、女性企業家が自分の思いで立ち上げできるような施策、そういった民間企業に対する県の支援の制度が何かございましたら教えていただきたいなと思います。そして、若手と言っても情報がまず無いので、いかに若手を繋げていくか、してもらえるか

というような情報発信というか情報交流というのがあれば教えていただきたいと思います。

＜知事＞

長井市では、「まちづくり」ということで、歴史や文化・自然を活かした観光交流の拡大、そして中心市街地の賑わいづくりということで、地域が一体となって進めておられます。県としても、都市計画街路事業「桐町成田線」の整備によりましてこれらのまちづくりが一層充実していくと思います。この「桐町成田線」の整備を早期に完成するように県としましてもできる限り事業をしっかりとやっていきたいと思います。

「中心市街地活性化基本計画」ですが、都市機能の増進や経済活力の向上を一体的に推進するため、市町村が地域の方々と中心市街地活性化協議会を作って合意形成を図りながら作成し、内閣総理大臣の認定を得て、中心市街地が元気になる事業に取り組むものであります。地域の皆様が連携、協力して計画を策定して、街並みや商業施設の整備などを進め、中心市街地の機能を高めていくことが地方創生を進めていく上で大変重要だと思います。このため、中心市街地の活性化に向けまして、地域の方々が合意形成を図る協議会を組織して、具体的な計画を策定する場合や、策定した計画を着実に実行できるよう、県では事業の立ち上がり時期に支援を行っております。また、個々の事業者の方が取り組まれる事業に対しては、各地域の中小企業者の身近な相談窓口として、各総合支庁、ここでは置賜総合支庁に地域コーディネーターを配置しております。経営や技術、販路開拓など様々な相談をお受けしております。確か出張もしていると思います。県による各種支援制度の紹介なども行っておりますので、是非御活用いただきたいと思います。

特に、若手事業者の取組みに対する支援としまして、山形県商工業振興資金融資制度の開業支援資金の中で、30 歳以下の若者が開業して融資を受ける場合に金利優遇措置、優遇金利 1.2%からというものですね、通常は 1.4%なんですが、若手事業者に優遇ということで設けて支援しておりますので御活用いただければと思います。

＜置賜総合支庁産業経済部長＞

ただ今の御質問に関してましては、支援の制度が２つございまして、１番目が、地域コーディネーターがいわゆる御用聞きと称して、我々と一緒に地域の皆さん方に出張するなり、または商工会議所とか長井市からの情報を得て訪問をしながら、様々な経営課題から技術課題など、ありとあらゆる御相談に乗って、できるだけ次の展開をしようという御助言を申し上げております。もう１つが、知事の話の中でもありましたように、若手の新しい方が創業する場合の融資の優遇措置やその他「山形チャレンジ応援事業」というまた別の事業もありますし、国の制度でも「小規模事業者持続化補助金」など様々な制度がございます。我々のほうも一緒に訪問しましてできるだけ最適な支援ができないかどうか一緒になって相談させてもらいますので、是非お気軽に御相談いただければと思います。

３　新規就農者の支援について

＜意見者＞

これまでに就農を目指す若い研修生を受け入れてきた経験から、新規就農者への支援に

ついて御提案を申し上げたいと思います。

東京などの大都市圏から研修に来られた方は、まず言葉の壁にぶつかってしまって、最初は元気があるんですけれども時間が経つにつれて元気がなくなって挫折してしまうということも多いのではないかなと感じております。そこで、研修生が最後まで研修ができ、地域の農業後継者として定着できるように、研修生同士が悩みを打ち明け、互いに切磋琢磨しながら技術習得に励めるように、集合住宅の整備支援をお願いいたします。

一方、農業者の高齢化が進む中、安心して農地を預けることができる地域の農業法人への期待も大きくて、法人が安定した経営に立って研修生を育成し、雇用の確保が図れる支援の拡充をお願いいたします。

私は、農業が楽しいと思える地域づくりのために、好きな農家レストランの経営と若い人のために微力ながら頑張りたいと思います。

＜知事＞

県では市町村と連携しながら、新たに農業を志す方々が自らの農業適性を判断していただく農業体験や、技術・知識の習得のための研修、また経営が軌道に乗るまでの営農助成など、就農の動機付けから定着まで、きめ細かい支援を行っているところでございます。

研修生を温かく受け入れていただく農業者の方々の協力もあって、新規就農者数が増え、６年連続で 200 人を超えているんだと思っております。

長井市におきましても、４年前は１名の新規就農者ということだったんですけれども、平成 27 年度では 10 名まで増加しておりまして、ほとんどが青年層ということであります。

私も農業の現場から、女性や若い後継者また本県に移住して農業を始めた方々についての話を聞く機会が多くなってきました。意欲を持って農業にチャレンジできる環境づくりが大事だと思っているところであります。

就農を志す方の中には、就農に自信が持てなくなってしまったり、県外出身で地域社会にうまく溶け込むことができなくて、研修半ばで就農をやめてしまう方もいらっしゃると聞いております。そのため、できる限り悩みなどを解消できるように、県として先進農家のもとでの実践的な研修に加え、研修生が一堂に会して集合研修できるというようなこと、その中で宿泊を伴う意見交換会の開催なども通して研修生同士の交流を深めていただく場を提供したり、定着に向けた環境づくりを支援しております。研修生に寄り添いながら、しっかりとサポートをしていきたいと思います。

また、県では「地域の担い手は地域で育てる」という基本的な考え方のもと、地域の農業者が中心となってみんなで新規就農者をサポートする取組みを進めております。地域のベテラン農業者ですとか、先に就農した先輩農業者、研修生同士そういった方々が常日ごろから交流できるように支援をしております。

御提案のありました研修生に対する住宅支援ですけれども、集合住宅方式も考えられるのですが、研修生の事情や整備に伴う費用対効果なども踏まえる必要があります。事情というのは、一年中みんなで一緒にいるのは逆に気を使って大変だと思っている方がいらっしゃると聞いているところでございます。長井市の賃貸住宅家賃への一部助成というのもありますし、家族向けの新規就農者用の住宅を準備している、例えば大江町が西山杉を活

用した大江町型住宅を賃貸するというようなことがあるようでありまして、県内で 11 の市と町で住宅支援策が展開されているところです。県内への移住促進対策の１つとして、研修生等の要望をお聞きしながら市町村と連携した支援策を検討したいと思います。地域の実情に応じた取組みを支援していきたいと思います。

今日、お話をお伺いしましたので、御提案を長井市さんとお話し、地域のことの話し合いもやっていきながら、どういうことができるかということを検討していかなければいけないと思ったところでございます。

それから、昨年度の新規就農者のうち、農業法人などへ就農する方が４割を超えているんです。個人でやるという方もおりますけれども、農業法人のほうがどんどん増えていまして、そこに就職するという方も多くなっております。オーダーメイド型の県独自事業の創設など、農林水産業元気再生戦略に基づく取組みを進めた結果として、新規参入などの自営就農の増加に結びついたんですが、農業法人が新たな雇用を生み出しております。

総合支庁農業技術普及課では、農業法人に対して栽培技術や経営計画の作成、改善に向けた重点的な支援活動を展開しております。更に、今年度から県の独自施策として、トップランナー育成事業や６次化支援事業の創設、経営コンサルタントなどの専門家派遣など、農業法人等の更なる経営発展を支援しながら、研修生の育成環境も含めて引き続き努めていきたいと思います。これからもしっかりサポートしていきたいと思います。

＜置賜総合支庁産業経済部長＞

我々も、新しい置賜地域の農業を担う新規就農につきましては、先ほど知事から話がありましたように技術的な支援なり資金的な支援なり補助制度も含めまして、各々そのスタッフがおりますので、しっかりと御意見者様のほうにお邪魔して、話を聞きながらいろんな御支援の方法を長井市と話をしながら進めさせていただきたいと思います。

４　県産品について

＜意見者＞

山形県はこんにゃくの 1 人あたりの消費量が断トツで全国第 1 位ということになっております。大変こんにゃくを食べる県であるということであります。これは山形のソウルフードとも言える芋煮であったり玉こんであったり、山形県独自の食文化に依るところが大きいんだろうと思います。しかしながらその原料のこんにゃく芋については、群馬県が一大産地となっております。以前はこの長井でも、また隣の白鷹町も含めて、そこそここんにゃく芋が栽培されていたと聞いたことはあるんですけれども、今県内見渡しても一部契約栽培というような形がある程度で、まとまった形での栽培ということは行われていないと思います、いないはずです。もし今後、山形県でこんにゃく芋が生産されるということであれば、弊社としては是非県産の原料を使用したいと強い希望を持っております。

山形ブランドを前面に出して、原料から既存品への使用ということだけではなくて、新たな商品開発、製造、販売というところまで一連のストーリー性のある取組みをしていきたいなとそんなふうに考えているところであります。県の方では、山形県ならではの６次産業化を推進して、「食産業王国やまがた」を実現するということを策定されておりますけ

れども、また吉村知事もオール山形の体制で行っていくんだとよくおっしゃられております。我々製造業ですので、２次産業ということになるのですけれども、製造販売というところで関わっていきたいという思いも持っております。山形でこんにゃく芋が適地適作と言えるのか、また生産のノウハウの問題、また支援の体制であったりそんなところが問題になるんだと思いますけれども、冒頭で述べた通り、こんにゃくが山形にとって不可欠な食材であること、また消費量日本一の称号を持った食材でもありますので、我々一企業ですとなかなかハードルが高くて様々な問題がありますので、その生産拡大の可能性について、県のほうで可能性のほうを探っていただいてリードしていただければ幸いかなと思います。

あともう１点なんですけれども、吉村知事はトップセールスに積極的に取り組まれておりまして、それを頼もしく力強く思われている県民の方が多いと思います。食品のイメージが強いんですけれども、けん玉についてトップセールスをしていただいているということで、私も長井市民として、お話を今回初めて知ったんですけども、大変うれしく思ったところです。農産品については「つや姫」の母ということで「つや姫」であったり、さくらんぼであったり、そういうところが目立つわけで。これについては、山形が全国に誇る名物の代表でもありますし、全国に誇れるブランドでもありますので、これは当然なんだろうと、そういうことがメインになるのは当然なんだろうと思いますけれども、山形にはそれ以外にもおいしい農産物、または加工品がたくさんありますので、そういうところにまで、あまり目立たないものにも目を向けていただいて、おいしい山形のトップセールスを今まで以上にやっていただけたらなと思います。またそういうふうなものを全国に販売していく後押しを今まで以上にやっていただいて、また、そういう機会、場を作っていただけたら、我々も自信を持って全国に販売に出向いていきたいと思います。

＜知事＞

後半の方はなんか非常に過分なお言葉だったかなと思いまして、「しっかりとやってくれ」という激励のように聞こえましたので、トップセールスはしっかりやっていきたいと思っております。

前段のほうのこんにゃく芋の話でございます。加工品も含めてなんですけども、ちょっと昔のことを思い出しました。子どものころ、私は大江町で生まれ育っているのですが、家の方でもこんにゃく畑があったなって。でも今はなくなっちゃったってことが思い浮かびました。それから学生のときに群馬出身の親友がいたんですけど、山形の蔵王に来て「わあ、丸いこんにゃくだ」って喜んだんですね。「あら、こんにゃくってみんな丸いでしょ」って言ったら、山形だけだったんですね、あの玉こんっていうのはね。丸いこんにゃくって山形だけだったんですよ。後になってからわかったんですけども。ところが、群馬県がですね、今、御意見者からもお話ありましたけども全国の９割くらいを群馬県で生産していて、山形名物「玉こんにゃく」っていうのを別の県で出していた時期があって、「なんだこれは」と私もちょっと怒ったことがあるんです。しかも味マルジュウで味付けして、なんかすごく売れたりして。「なんだべ、山形のこんにゃくなのに」と憤ったこともあったんですけども、法律違反でもないということでスレスレなんだということがあったんで、す

ごくびっくりしたんですけども。でも、そんな喧嘩ばっかりもしていられないんですけどもね。

こんにゃくは、御意見者のお話にあったように、山形市の１世帯あたりの年間消費額は約 4,000 円で、これは全国第１位。家計調査で総務省がやっているんですけど、年間消費量は約 3,200 トンとなっているようでございます。御案内のようにやはり芋煮というのが大きいんだろうなと思います。

それから原料のこんにゃく芋ですけど、全国の生産量は 58,000 トンであります。群馬県がその９割以上を生産しております。専門分野から聞いたのですが、こんにゃく芋っていうのはとても繊細で病気にも弱いんですって。また、寒冷地は栽培にあまり適さない、夏に高温になるところや、風が強く水はけの悪いところではうまく育たないって、こんにゃく芋は本当にデリケートな繊細なものなんですね。本県の生産量は３トン程度となっております。収穫までしかも１年では終わらないんですね。３年から４年かかるということで、しかも話を聞くと植え放しじゃだめで、冬になる前に一回それを掘り起こして冬保存しておいて、また春に植えて、それこそ手間ひまのかかるものらしいんです。私も聞いてびっくりしたんですけども。本当に手間ひまかかって難しい。しかもその収益性なんですけども、群馬県で単収が多いことになっていますけども３年間育てて 10 アールあたり 20 万円程度ということで、枝豆など他の品目と比べても大変収益性が低い品目だということで、だからなかなか広がらないんですね。作りにくい、作っても儲からないという、簡単に言ってしまえばそういうものだそうでございます。

こういう中で、白鷹町の２件の農家が 20 アールでこんにゃく芋を栽培しておられます。自家栽培のこんにゃく芋を加工して、付加価値を高めたこんにゃくを製造・販売している事例もございます。それから県内観光名物「玉こんにゃく」ですね、そして「山形芋煮」ということで、加工品、食材はたくさん必要なんですね。ですからストーリー性をもたせて、付加価値を高めるということは可能ですので、地元の生産者と食品製造、観光等の皆様が連携して、両方に皆さんにメリットのある取組みを進めていけたらいいんじゃないかなと考えております。

その際に、こんにゃく芋の栽培技術等の取組み支援や情報提供については総合支庁が、そしてまた新商品開発については県の農業総合研究センターと工業技術センター、これが連携して「食品加工支援チーム」というものを作っておりまして、それぞれ中心となって支援をしていきますので、加工品の開発などいつでも何でも御相談いただければと思います。また、県内の加工業者等が行う県産農産物の利用拡大の取組みに必要な設備整備費、そういったことに対しまして「食産業王国やまがた推進事業」などがございますので、総合支庁に御相談いただき御活用していただければと思います。

こんにゃく加工品の新たな商品開発に対する支援としましては「やまがた地域産業応援基金」というものがありまして、こんにゃくなどの地域資源を活用した新商品の開発などに取り組む事業に対して、助成金を交付して支援しておりますので、御活用いただきたいと思います。

後段のほうのトップセールス、私はトップセールスが大事な役割だと思っております。さくらんぼの帽子を被りましたけどね。あと、つや姫ですと、もんぺ履いて田植えして稲

刈りしてということもやっておりまして、絣の着物一番似合うと褒められるとすぐおだてに乗りまして、ミラノでも絣の着物にエプロンをして、奥田シェフが芋煮つくるのに「はい、かきまわして」とかと言って「はい」と言ってかきまわして、助手をやってまいりまして、日本のマンマ、お母さんっていうらしいですねイタリア語では「マンマ」は。「日本のマンマだー」って言われてきたんですけども、芋煮はイタリア人にも好評でございました。「ボーノ」っていうのは「おいしい」っていうイタリア語なんですね。「ボーノ」ってレストラン、確か山形にもあったんですけど、「おいしい」ってイタリア語だったんだなって今回わかりました。「ボーノ！ボーノ！」っていろいろ言われまして、私なんか好奇心が強いものですから、「この中でどれが一番うまいですか？」って芋煮の中でね、「この中でどれが一番うまい？」って聞いたら「牛肉だ」って言われましたけどね。牛肉は置賜地方にはたくさんありますのでね、世界中に共通する。こんにゃくは体に良いっていうので、もっと宣伝できるんじゃないかなと個人的には思っております。

それからこの 10 月に入って「総称山形牛」のトップセールスをやってきました。「東京食肉市場まつり」というところで、東京の品川でね、それをやったんですけれども、２日間で 29,763 人の方が来場されて、これ史上２位だそうです、この人数は。売上は 687 万８千円。これはこれまでで１番の売上額だったということであります。山形牛の人気、すごいんでございます。牛と一緒になって「牛こん」なんてのもやっていますもんね。川西町のダリア園に行くと、こんにゃく・牛肉・こんにゃくと繋いだものを売っています。ああいうものも喜ばれるのではないかなと思います。こんにゃくのカルチャーショックを受けたのが、東京で銀座に鶴岡の方がお店を出しているところがあるんですけども。居酒屋なんですが、こんにゃくを醤油で味付けたものを炭火でそれ焼いていたんですよ。ちょっと水分が飛んで、なんかシコシコした感じになるんです。また別物になりました。そんな食べ方があったなと。あと天童のある温泉旅館が東京に出店していまして、食べ物屋さんをやっているんですけども、そこでは、こんにゃくを炒めたものにチーズを、チーズ味のソースをかけているんですよ。それはなんか絶妙でしたね。いや、こんにゃく、いろんな可能性があるんだなということで、私はもう醤油で煮た玉こんにゃくと芋煮、だいたいそのくらいだなって、あと野菜と炒めたりはしますけども、いろんな活用方法があるなということを実感しているところでございます。本県だと漬物とかお菓子、様々な加工品がたくさんありますので、これからも付加価値を上げて販売していくことが大事ではないかなと思います。

生産ということでは先ほども申し上げた通りかなり色々な課題があるようでございますけど、例えば高齢者の方々の、ちょっとした手間ひまはかかるんですが楽しみというのもあってもいいのではないのかなと思います。中山間地域で何かできないかなといつも思うんですけれどもね。そういった方向も探ってもいいのではないかなと思います。

それから、山形市の高原っていうところで、高原こんにゃく屋さんっていうのが冬場だけ開業しているんですよ。普段は農家なんですけども、12 月、１月、２月くらいだけこんにゃく屋さんになるんですね。私も買いに行きましたけども、買ってきてすぐ刺身で食べられるんです。年末のお歳暮なんかにね、家の庭師さんなんかが、このこんにゃくを持ってきてくれるんですけれども大変楽しみにしているところです。期間限定のこんにゃくな

んていうのも大変好評で、２回くらい買いに行きましたけども、たくさんの方が買いに来ていつも完売するくらい流行っています。季節的なこともできるんだなと思ったところです。いろんな可能性がまだまだありますのでね、一緒になって開発をしていければと思いますので、なんでも御相談いただきたいと思います。

＜置賜総合支庁産業経済部長＞

地元の素材を使って新しい付加価値をつけた商品開発をしていただけるということで、大変ありがとうございます。確かに、栽培は非常にちょっと難しい部分があると聞いているんですが、可能性を我々のほうも生産の技術面なり、製造コストなり、一緒になって考えさせていただきたいと思います。

それに、先ほど知事からお話ありましたように商品開発面とか、いろんな部署でいろんな支援ができる可能性がありますので、そこは私どものほうがしっかりと間に立ってお話をさせていただきます。なるべく早くお邪魔していろんな御相談させてもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。

＜意見者＞

知事からも話がありました通り、私どもも、東京などに催事に行って「山形名物の玉こんだ」と言っても「原料、群馬県なんだよね」なんて言われて非常に悔しい思いをしょっちゅうしているもので、なかなかちょっとこう気候、土壌の問題で難しいということなんだと思いますけれども、その可能性をあきらめないで、私どものほうででも探ってまいりたいと思いますので、そちらの支援のほうもお願いしたいと。最後に、米沢牛と玉こんが一緒になったものをうちのほうでも出しておりまして、大変好評ですので、今後、そういうこんにゃく単品だけじゃなくて、山形県の魅力をコラボしていくような形の開発ということもいろいろ考えておりますので、是非そちらの方も御支援いただければ幸いです。

＜知事＞

またちょっと浮かんだんですが、三重県に行ったときに、豆腐屋さんが、豆腐も同じ濃度じゃなくてすごく濃い、豆腐味がものすごく強い豆腐を高く売っていたんですよ。そしてその次の濃度の高いものをちょっと安く３段階、４段階くらいにして、同じ豆腐屋さんでもちゃんと差別商品を作っていたんですね。高いほうから売れるって言っていました。こんにゃくもそういうふうにして売るとか、山形生まれ山形育ちのこんにゃくは高くブランド品として売って、群馬県のをちょっと安くすればいいんです。山形産は高くしていくとかなんかこんにゃくも差別したほうがいいのかななんて、今お話を聞いてそんなことを考えたので御参考になればと思います。

５　建設・建築業界の人材育成について

＜意見者＞

今年の６月に、安部内閣が今ある文部科学省系の大学あるいは短大を改編して、総合的な職業人材を育成する、そういう教育訓練を行う学校として「職業教育学校」をこれは仮

称ですが、それを開設するということを決めております。そして 4 月には既に中央教育審議会に諮問しておりますし、今年度中には答申が出るということで、確実に進んでいます。その中で、職業教育学校のいわゆる大学、短大ですが、その卒業生には新たな学位を作って授与するとなっております。

そこで知事にお願いなんですが、この文部科学省所管の「職業教育学校」の制度が検討される中で、職業訓練は現在、職業能力開発大学校、あるいは職業能力開発短期大学校で専門に行っているわけですので、その修了生についても、同じように、学位が授与できるような制度設計を検討していただきたい。それを是非、国に働きかけていただきたいと思います。

そうしますと、県の産業技術短期大学校あるいは農業大学校もそうだと思うんですが、うちの学校もそうですけれども、その修了者には、県内ですと人事委員会規則で短大と同じ同等と位置づけられていますが、学位の授与があれば、もっと明確に処遇するといいますか、特徴が出ると思います。そういうところが期待できますので、是非、働きかけをお願いしたいと思います。

それによりまして、職業訓練に対する社会的な理解、あるいは職業訓練を目指す若い人たちの増加ということも非常に期待されるわけで、現在は建設業の若年の技術者、あるいは有資格者が非常に不足しております。そういう人材育成についても重要な役割を果たすのではないかと思います。国の方では、国土交通省と厚生労働省が協力して建設業の人材の確保、育成ということを目指してきておりますが、その中でも職業訓練の助成制度の充実を打ち出しております。それらも含めまして、是非今度新しくできる職業教育学校の学位授与のときに職業能力開発の短期学校、あるいは大学校についても同じようなことを検討していただくことを契機にして、今、人材が不足している状態での人材確保、そういうことに繋げていきたいと思いますので、知事の御理解をいただきたいと思います。

＜知事＞

御提案いただいたことは大変重要なことだと思っております。人材育成も重要でありますし、中でも本県は、その技術者の人材育成ということでもっともっと力を入れなければいけないなと思っているところでございますので御要望いただきましたことについて、しっかりと政府に対して申し上げていきたいと思っております。

先ほど申し上げた農業大学校の林業経営学科、また県の産業技術短期大学校に土木エンジニアリング科が、仮称ですけれども、そこも新しく一歩踏み出そうとしておりますので、今おっしゃったことと強く関連しておりまして、学位といったものが授与されれば、やはり素晴らしく、あるいは「魅力ある学校だ」ということになりますので、県内あるいは県外からも来ていただけることになるかと思いますので、私もしっかりと働きかけていきたいと思います。

【その他の質疑】

６　障がい者施設の運営費補助の充実について

＜意見者＞

私は、特に重い障がいを持っている人が心の拠り所とする在宅日中活動施設を、長井市を始め飯豊町、白鷹町の御協力を得て設置運営してまいりました。県内初めての NPO 法人へ、それから NPO 法人から社会福祉法人へ変わっていきました。長井市はもとより、県の指導の下、県内はもとより、全国でも数少ない社会福祉法人となることができました。施設の理念であります「誰でも、どんな重い障がいがあっても受け入れる」ということをモットーに進んできました。長井を始め、西置賜郡における現況は障がい児就労、生活改善等のサービス利用者が定員一杯、それからオーバーしている施設ばかりでございます。米沢養護学校、それから上山ゆきわり養護学校の卒業生の受入れが困難な状況になっています。今後の障がい児卒業生の進路を考えて、施設として平成 28 年度に施設を改修したい、増員計画を持っております。

その中で一番気になるのが、40 人から 60 人定員になったら 1 人当たりの交付単価が下がるということです。初めから経営にあった利用者が増えるわけではない中で、覚悟を決めて経営していくつもりです。借入金とか長井市とも十分話し合って考えていきますけれども、長期的に養護学校卒業生を受け入れるためには 40 人を超えたらすぐ交付金単価を下げるのではなくて、段階的に、経営の運用資金の脆弱な施設に段階的に配慮していただければありがたいです。

＜知事＞

今お話をお聞きしましたけれども、40 人から 60 人に増えると 1 人当たりの交付単価が減るということをお聞きいたしまして、それがまた逆に大変になってしまうのかなとお聞きをしていたところでございます。どういうことができるのか、今すぐここでお答えできるというわけではありませんけども、ちょっと持ち帰らせていただきまして、調べさせていただきたいと思います。

＜置賜総合支庁保健福祉環境部長＞

今、運営費の話お聞きしましたが、平成 28 年度に向けて整備を検討されているとのお話をお聞きしたところでございます。この場で詳しい数字は持ち合わせておりませんが、運営費については一般的に国の基準に基づいて単価とかが決まっておりますが、どのような施設を整備するかも含めまして、長井市さんと私ども総合支庁に御相談いただき、いろんな方策、どういうものがいいか検討させていただければと思います。

7　フラワー長井線に対する一層の支援について

＜意見者＞

先日、フラワー長井線の駅にベンチを寄付させていただきました。それでベンチは山形工科短期大学校さんのほうから作っていただいて、とても素晴らしいベンチを作っていただきました。フラワー長井線は、長井の顔というのでちょうど昔、「小出」と「宮」の真ん中に作られた駅なんだそうです。せっかく素晴らしい駅があってその周りにも色々お店とかもけん玉とか、漆塗りとかそういうのが発展してまいりました。それでフラワー長井線について、観光に訪れた方とか沿線住民の皆様に使っていただくという意味で長井の顔で

ある長井駅をなんとかこう明るく、楽しい駅にしていけないものかと思います。

そういうことから先日、南長井駅でドメスティックバイオレンスというので女性と女児のためのティッシュ配りをしました。朝のちょうど混む時間で、長井高校の生徒さんが乗ったり下りたり、100 名くらい長井駅に集まりまして、賑わいがいがありました。それで是非、吉村知事にフラワー長井線、長井駅をこれからますます PR していただきたいと思います。

＜知事＞

ここに来る前に、市長さんに御案内していただきまして、長井駅に行ってまいりました。そこで椅子を拝見させていただきましたけども、工科大さんの手作りということで大変素晴らしいものだと思います。私、市長さんにまた余計なことを言っちゃったんですけど、外に出たところが、椅子が置いてあるところ、石がひび割れているので、歴史的なものを感じるけれども、この辺をね、もうちょっとなんとか、木を貼ったりとかできないのかみたいなことを。

やはりみんなが気持ちよく過ごせる空間がとても大事だといます。２市２町の首長さんからフラワー長井線のいろんな御要望をいただいておりますし、経営計画もしっかり作っていただきましたので、県としても政府と県と一緒になってこれから、これからもなんですけれども支援していければと思っているところでございます。

＜市長＞

フラワー長井線の話を出していただいてホッとしました。先ほど知事に御覧いただいた時に、駅も周囲の皆さんが売店をなさっていただいたり、ギャラリー停車場ということで賑わいを作るような活動をしていただいたり、知事にお買い上げいただいたのは大根とカブだったんですけども、野菜なども、すごく安くておいしい野菜だということで評判ですので、是非県のほうからもできれば御支援いただくようなことで長井駅そのものを、これは山形鉄道の所有物になっていますので、是非少し、玄関ですから、改善していくように、床は木製のデッキみたいな、フローリングですね、できたらいいなと思います。頑張っていきたいと思います。

８　知事の今後の活躍に期待

＜意見者＞

東北に、初の女性知事誕生。これには、山形県はもとより、東北にも新しい時代が到来したとの感を持った人は数多くいたのではないでしょうか。ただ今は、各代表の方々により、長井をいかに住み良く、楽しく、活気づいたまちにしたいかという要望が熱く語られました。私も、実現されることを心から願いたく聞いておりました。吉村知事は様々な困難な問題に対し解決に即対応なされてまいりましたことは、みんなが承知していることであります。私たち１人１人が、この県政に対する熱意が並々ならぬ決意のもとにあたっていらっしゃることを実感としております。観光山形を、国内外に発信されました。なんと申しても、新春の舞台でさくらんぼを被られたことはなんとも微笑ましく、その心意気に

感動いたしました。蔵王山観光客減少に歯止めをかけられ、誘客を率先して行われたことは記憶に新しいことです。イタリアのミラノ博覧会では、現地へ赴いての山形の素晴らしさをPRされました。吉村知事でなければできないことだと思います。

山形は農業人口が減少してきております。TPP問題への対応、福祉施設の問題など、私たちが日ごろ抱えている数多くの結果を出すには、もっともっと多くの時間が必要と思われます。是非にも、私たちの願いを叶えてくださるのは吉村知事をおいて他にはいらっしゃいません。吉村知事の行く先々には、女性の姿が目立つようになったと思います。これはとても大事なことと思います。どうぞ、大きな力としていただきたいと思います。

吉村知事の座右の銘である「為せば成る」を信条として引き続き県政をけん引していっていただきたいと心から願っております。吉村知事の更なる手腕に長井市民、心より御期待申し上げます。

＜知事＞

「もっと頑張れ！」ということだと肝に銘じて全力でまた頑張りたいと思います。

以上